

議 事 録

会議名	第3回寒川町子ども・子育て会議		
日 時	平成31年3月26日（火） 14：00～	開催形態	公開
場 所	東分庁舎2階第2会議室		
出席者	磯川委員長、中島副委員長、望月委員、鷺見委員、志賀委員、藤崎委員、白岩委員、野田委員、曾我委員 事務局 伊藤健康子ども部長、宮崎子育て支援課長、秋庭主査、守屋主査、今澤副技幹、坂蒔主査、原田保育・青少年課長、徳江副主幹、亀井副主幹 傍聴人 2名		
議 題	（1）子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の集計結果(速報)について		
決定事項	議事録承認委員 望月委員、鷺見委員に決定 （1）了承		
議事録	<p>1 開会</p> <p>2 議事録承認委員の指名</p> <p>3 議題</p> <p>（1）子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の集計結果(速報)について</p> <p><資料1により説明></p> <p>【事務局 守屋】 それでは、議題（1）子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の集計結果（速報）について説明させていただきます。</p> <p>資料1-1の子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告（速報）をご覧ください。こちらは、就学前児童の保護者を対象に実施したニーズ調査で、家族状況や就労状況、日常的な幼稚園・保育施設等の利用、育児休業取得状況などについて、大きく32問の設問にお答えいただきました。</p> <p>今回は、速報ということであり、ニーズ調査の全ての項目を網羅したものではありませんが、集計結果についてご説明したいと思います。</p> <p>それでは、2ページをご覧ください。</p> <p>2の調査の実施方法と配付・回収状況ですが、対象者1,970件に対して、昨年11月27日に郵送により配付し、回答については12月11日を回答期限として、郵送・ウェブのほか、町内の幼稚園や保育所、小児科や産婦人科、各公共施設など、21カ所に設置した回収箱により回収いたしました。</p> <p>回収数は、850件、回収率は43.1%という結果で、前回、平成25年度の実施状況と比較しますと、配付数は64件増えましたが、回収数については、今回、ウェブや</p>		

回収箱など、回答しやすい環境整備に努めたものの、結果として196件のマイナスとなり、回収率も11.8ポイントのマイナスとなりました。

続きまして、3ページをご覧ください。

(1) 就学前児童の属性と(2) 居住地区の状況については、グラフのとおりとなっております。前回の調査とほぼ同様の割合となっております。

次に、4ページをご覧ください。

問4 調査回答者は、ほとんどが母親であり、問5 配偶者関係は、9割以上が「配偶者がいる」と回答しています。どちらの割合も、前回の調査とほぼ同様の割合となっております。

問6 子育てを主に行っている人では、前回は「主に母親」が「父母ともに」を若干上回っていましたが、今回は「父母ともに」が「主に母親」を上回る結果となりました。

続きまして、5ページをご覧ください。

1 子育ての環境についてですが、問7 子育てに日常的に関わっている人は「母親」が圧倒的に多く、次いで「父親」となっており、父母ともに関わっている人も多いことがうかがえます。

問8 子育てにもっとも影響を与えると思う環境については、多くの人が「家庭」と回答しており、「幼稚園」「保育所」は3割を超え、前回の調査と比較すると「保育所」が若干増える結果となりました。

6ページをご覧ください。

問9 子どもをみてもらえる親族・知人ですが、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く、前回の調査とほぼ同様の割合となっております。

また、問10 気軽に相談できる人がいる割合は87.9%で、その相談先は「祖父母等の親族」「友人や知人」が多数を占めており、全体の割合は前回とほぼ同様となっております。

続きまして、7ページをご覧ください。

2 保護者の就労状況で、まず母親の就労状況ですが「以前は就労していたが、現在は就労していない」が43.5%と最も多い結果となっておりますが、前回の調査と比較すると約10ポイント減っております。

また、フルタイム、パート・アルバイト等にかかわらず、就労している人の割合は、合わせて50%であり、前回より12.4ポイント増えております。

就労日数は「5日」、就労時間は「8～9時間」が最も多く、前回とほぼ同様の割合となっております。

8ページをご覧ください。

問13 (1) 母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向ですが、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある人」と「ない人」を合わせると25.9%にとどまり、前回の調査と比較すると6.7ポイント減少する結果となりました。

また、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する人」の割合が最も多くな

っております。

問14(1) 就労していない母親の今後の就労希望では、70.8%が今後の就労を希望しており、そのうち「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が20.6%で、希望する就労形態は「パートタイム・アルバイト等」が85.7%と大半を占めております。前回の調査と比較すると、フルタイムを希望する人の割合が若干増え、パートタイム・アルバイト等を希望する人の割合が大幅に増える結果となりました。

続きまして、9ページをご覧ください。

父親の就労状況ですが、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が85.1%と大半を占めております。こちらは、前回の調査とほぼ同様の割合となっております。

就労日数は「5日」、就労時間は「8～9時間」が最も多く、前回の調査と比較すると就労時間で「12時間以上」が減少し「8～9時間」が増加する結果となりました。

続きまして、10ページをご覧ください。

3 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望で、まず問15 幼稚園・保育施設等の利用状況ですが、「利用している」という人は7割弱となっており、前回の調査では5割弱だったため、利用者が増えた状況がうかがえます。

また、問15-1 定期的に利用している幼稚園・保育施設等ですが、「幼稚園」「認可保育所」の順に多くなっておりますが、前回の調査と比較すると、「幼稚園」が若干減った一方で「認定こども園」が増加傾向にあることがうかがえます。

次に、11ページをご覧ください。

まず、上段の利用日数と希望日数ですが、利用日数、希望日数ともに「5日」が最も多くなっております。

下段の利用時間と希望時間ですが、利用時間では「5時間」が最も多く、希望時間では「5時間」から「10時間」と回答が分かれている状況です。

次に、12ページをご覧ください。

問15-3 日常的に利用している施設等の場所ですが、9割を超える人が「寒川町内」の施設を利用しております。前回の調査と比較すると「他の市区町村」の割合が減少し、「寒川町内」の割合が増加している状況となっております。

問16 平日利用したいと考える幼稚園・保育施設等についてですが、こちらは、現在利用している人、利用していない人、全てにお聞きしており、「幼稚園」「認可保育所」「幼稚園の預かり保育」「認定こども園」の順に多くなっております。前回の調査と比較すると、ほぼ同様の割合となっておりますが、「認可保育所」「認定こども園」「ファミリーサポートセンター」を利用している人の割合が若干増えている状況となっております。

問16-1 利用したい場所で、ほとんどの人が「寒川町内」と回答しており、問16-2で幼稚園の利用を強く希望するかがあったところ、63.5%の人が「はい」と回答しております。

続きまして、13ページをご覧ください。

4 地域子育て支援事業の現状と今後の利用希望で、(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況ですが、子育て支援センター等を「利用していない」という人が8割を超え、前回の調査より増加した一方で、子育て支援センター等を「利用している」という人が減少している状況となっております。

また、利用回数については、子育て支援センター、その他類似事業ともに「月に1回」が最も多くなっております。今後の利用については「現状維持」という人が最も多く、「利用していないが利用したい」という人は20.4%にとどまっています。全体の割合を見ると、前回の調査とほぼ同様の割合となっております。

続きまして、14ページをご覧ください。

(2) 地域子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向についてですが、地域子育て支援事業を知っているかという問いに対して、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」「父親・母親教室」が高くなっており、利用したことがある事業も、この2事業が高くなっております。

また、今後の利用希望が多い事業は、「総合教育センター・教育相談」「さむかわ子育てガイド等の支援情報誌」となっております。

続きまして、15ページをご覧ください。

5 土曜日・休日の教育・保育事業の利用希望ですが、まず、土曜日については「利用する必要はない」が65.5%、「月に1～2回は利用したい」が22.1%となっており、前回とほぼ同様の割合となっております。

日曜日・祝日については「利用する必要はない」が79.9%、「月に1～2回は利用したい」が15.5%となっており、こちらも前回とほぼ同様の割合となっております。

また、長期休暇中については「利用する必要はない」が44.7%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が44.3%となっており、前回の調査と比較すると「利用する必要はない」と回答した人が若干増え、「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した人が減少した結果となっております。

続きまして、16ページをご覧ください。

6 病児・病後児保育事業の潜在ニーズですが、問22の 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無について、71.9%の人が「あった」と回答しており、その対処方法は「母親が休んだ」が最も多くなっております。前回の調査と比較すると「あった」と回答した人が増加し、「なかった」と回答した人が減少しており、対処方法については、ほぼ同様の割合となっております。

次に、17ページをご覧ください。

問22-2 父親・母親が休んだ人の病児・病後児保育施設利用意向では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が38.7%、「利用したいとは思わない」が59.5%となっております。

また、利用したい人が思う望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が85.6%、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が69.

2%となっており、望ましい希望日数は「5日」「3日」「2日」の順に多くなっております。

次に、18ページをご覧ください。

こちらは、前のページの間22-2 父親・母親が休んだ人の病児・病後児保育施設利用意向で「利用したいとは思わない」と回答した人の理由について聞いており、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が最も多く、「親が仕事を休んで対応する」「利用料がかかる・高い」の順に多くなっております。

次に、19ページをご覧ください。

こちらは、父母が休む以外の対処方法を選んだ人の「父母が休んで看たい」意向と希望日数を聞いており、「できれば仕事を休んで看たい」が34.5%であり、「休んで看することは非常に難しい」が19.4%となっております。

「休んで看することは非常に難しい」の理由としては「子どもの看護を理由に休みがとれない」が57.8%と最も多く、次いで、「その他」が33.3%となっております。

「その他」の主な理由としては、記載のとおり「職場の環境・雰囲気」「収入減となる」「授業参観やほかの用事で休みを取りたい」等が挙げられております。

続きまして、20ページをご覧ください。

7 不定期の一時保育の利用状況ですが「幼稚園の預かり保育」が11.8%、「一時預かり」が2.4%、「利用していない」が79.8%で、前回とほぼ同様の割合となっております。一時保育を利用していない理由は「特に利用する必要がない」が81.3%、「利用料がかかる・高い」が17.1%で、前回の調査と比較すると「特に利用する必要がない」が4ポイント増え、「利用料がかかる・高い」が9.6ポイント減少する結果となりました。

次に、21ページをご覧ください。

一時保育事業の利用希望ですが「利用する必要はない」が49.9%、「利用したい」が37.5%となっており、利用したい人の目的は「私用・リフレッシュ目的」が80.9%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が64.9%となっており、前回の調査と比較すると「私用・リフレッシュ目的」が12ポイント増加する結果となりました。

また、目的ごとの必要日数を見ると、私用・リフレッシュ目的は「年間11～15日」が最も多く、冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等では「年間5日」が最も多くなっております。

続きまして、22ページをご覧ください。

8 放課後の過ごし方の希望と学童保育所の利用希望ですが、左側の小学校低学年になった場合の過ごし方の希望を見ると、「自宅」「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」「放課後児童クラブ（学童保育）」の順に多くなっております。右側の小学校高学年になった場合の過ごし方の希望を見ると、「塾や習い事」「自宅」「その他（公民館、公園など）」の順に多くなっております。前回の調査と比較すると、全体的に

ほぼ同様の割合となっております。

次に、23ページをご覧ください。

(2) 土曜日・休日の学童保育所利用希望で、まず、土曜日の利用希望を見ると「低学年の間は利用したい」が23.8%、「高学年になっても利用したい」が15.9%、「利用する必要はない」が54.0%となっており、前回の調査と比較すると「低学年の間は利用したい」が21ポイント減少し、「利用する必要はない」が19.5ポイント増加する結果となりました。

また、日曜日・祝日の利用希望を見ると「低学年の間は利用したい」が15.9%、「高学年になっても利用したい」が7.9%、「利用する必要はない」が66.7%となっており、前回とほぼ同様の割合となっております。

続きまして、最終ページの24ページをご覧ください。

9 寒川町の子育ての環境や支援への満足度についてですが、「満足度が低い」「満足度がやや低い」の合計が27.5%、「満足度が高い」「満足度がやや高い」の合計が23.6%で、満足度の低さが3.9ポイント上回っております。

資料1-1の説明は以上となります。

続きまして、資料1-2の子ども・子育て支援事業（児童クラブ）に関するニーズ調査報告（速報）をご覧ください。

こちらは、就学児童の保護者を対象に、児童クラブに関するニーズ調査を実施したもので、就労状況や児童クラブの利用希望などについてお答えいただきました。

それでは、2ページをご覧ください。

2の調査の実施方法と配付・回収状況ですが、こちらにつきましては、町内各小学校において調査票の配付及び回収にご協力をいただきながら実施をいたしました。

各小学校で抽出した各学年1学級を通じて、11月27日に全部で962件の調査票を配付し、回答につきましても、12月11日を期限として各小学校を通じて回収させていただきました。

回収数は470件、回収率は48.9%という結果で、前回の調査と比較しますと、配付数が3件のマイナス、回収数は207件のマイナスとなり、回収率は21.3ポイントのマイナスとなりました。

4の調査対象者の属性については、グラフのとおりとなっております。

続きまして、3ページをご覧ください。

1 保護者の就労状況で、まず、母親の就労状況ですが「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が39.8%と最も高い結果となっております。

また、フルタイム、パート・アルバイト等にかかわらず、就労している人の割合は、合わせて61.5%であり、前回とほぼ同様となっております。

就労日数は「5日」、就労時間は「4～5時間」が最も多くなっております。

次に、4ページをご覧ください。

父親の就労状況ですが、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が78.5%と大半を占めております。

また、フルタイム、パート・アルバイト等にかかわらず、就労している人の割合は、合わせて79.1%であり、こちらも前回とほぼ同様となっております。

就労日数は「5日」、就労時間は「8～9時間」が最も多くなっております。

続きまして、5ページをご覧ください。

(1) 平日の放課後の過ごし方ですが、問4 放課後の過ごし方と日数をご覧ください。「自宅」「塾や習い事」「その他(公民館、公園など)」の順に多く、放課後児童クラブを利用している人は11.3%という結果となっております。

また、1週間にどのくらい放課後児童クラブで過ごしているかについてですが、6ページの上から2つ目のグラフのとおり、「5日」という人が最も多く、64.2%という結果となっております。

続きまして、(2) 平日の学童保育所利用希望ですが、こちらは、平日に放課後児童クラブを利用していない人に、今後利用したいかうかがったもので、「利用したい」と回答した人は5.4%、411人中22人となっており、「利用する必要はない」と回答した人は81.0%、411人中333人となっております。

また、それぞれの理由についてですが、7ページをご覧ください。

まず、問4-2 利用していない人で利用希望のある人の理由ですが、「その他」を除くと「施設の定員が不足しているため入所できなかったが、定員に余裕ができれば、入所したい」が27.3%で最も多くなっております。

「その他」の主な理由としては、記載のとおり「今後就労した場合、みることができなくなるため」となっております。

次に、問4-3 利用していない人で利用希望のない人の理由ですが、「保護者が、子どもをみることができる」が68.2%で、最も多くなっております。

続きまして、8ページをご覧ください。

(3) 土曜日・休日の学童保育所利用希望ですが、こちらは、平日に放課後児童クラブを利用している人、または利用希望のある人に、土曜日または日曜日・祝日に放課後児童クラブを利用したいかうかがったもので、まず、土曜日については「利用したい」が50.7%、75人中38人となっており、「利用する必要はない」が41.3%、75人中31人となっております。前回の調査と比較すると、「利用したい」が約4ポイント減少しております。

また、日曜日・祝日については「利用したい」が12.0%、75人中9人となっており、「利用する必要はない」が73.3%、75人中55人となっており、前回の調査と比較すると、「利用したい」が約14ポイント減少しております。

次に、(4) 長期休暇中の学童保育所利用希望ですが、こちらも平日に放課後児童クラブを利用している人、または利用希望のある人に、夏休み・冬休みなどの長期休暇中に放課後児童クラブを利用したいかうかがったもので、「利用したい」が89.3%、75

人中67人となっており、「利用する必要はない」が2.7%、75人中2人となっております。

最後に、9ページをご覧ください。

3 寒川町の子育ての環境や支援への満足度ですが、「満足度が低い」「満足度がやや低い」の合計が34.6%、「満足度が高い」「満足度がやや高い」の合計が15.3%で、満足度の低さが19.3ポイント上回っております。

説明は以上となります。よろしく願いいたします。

【委員長】 事務局のほうから調査報告の内容、未就学児と児童クラブのニーズ調査の報告がありました。質問はありますでしょうか。

【藤崎委員】 未就学児の回答方法を、郵送とウェブと回収箱というふうに、今回、分けられているのですが、郵送以外で回答してくださった方がどのぐらい割合がいるかというのが、もしわかれば教えていただきたい。

あと、この放課後児童クラブ分を学校にお願いすれば、もうちょっと集まるというつもりで、学校にお願いしたと思うのですが、今回減っていて、自分が学校でいろいろPTAとかもやっていて実感するんですけど、最近、紙ベースで学校から子どもを通して家庭に持っていくという情報のやり方が、あまり重要視されなくなってきていて、学校で受け取ったプリントをまず親に出さない、宿題も出さないという子が結構増えていて、親もそんなに学校からの便りを、その子を通して得ることがなくて、自分の子はどうせ持って帰ってこないからしっかりしてそうな子に聞くとか、違う手段で情報を手に入れるすべを持っている。場合によっては直接電話で聞いたり、紙に頼り切っていないので、紙でもらって紙で返すというのは、ちょっとこの5年で変わってきているかもしれないなというふうに感じていて、次に調査されるときは、もうちょっと現代に合わせた工夫が必要なのかなと思いました。

【事務局 宮崎】 まず1点目ですけど、未就学児のほうの調査で、回収率が落ちたという中で、内訳を申し上げますと、全部で850回収されたうちの、郵送で回収させていただいた分が510件ですね。割合にすると、回答の中で60%を占めています。

今回、ウェブによる回収の方法を新しく設けたのですが、ウェブが87件、割合で言いますと10.2%になります。

あと、回収箱、21カ所、いろいろなところにご協力いただいて置かせていただいたのですが、そちらを通じてというのが、残りの253件で、割合で言うと29.8%でした。

回収箱という形は、今までもパブリックコメントをやったりするときにも、幼稚園さん、保育園さん、いろいろなところにご協力いただいて、置かせていただいてやってきたところですが、今回、初めてウェブということで、これは、町でもeモニター制度ですとか、電子媒体を使ったアンケート制度をやっている中で、今回、こういう調査をするにあたって、子ども・子育て会議のこのニーズ調査が初めて、町としてはウェブというやり方を使いました。

実際、やった結果として、こう言うと怒られてしまうかもしれませんが、正直に申し上げて、使い勝手が非常に悪くて、回答をしていくときに、時間がたってしまうと終了してしまうので、次に、またウェブをあけるためにはパスワードを取得しなければいけなかったり、そういう部分で、一度ウェブからやり出していただいた方が、ちょっとこれはやりにくいから、もう答えるのをやめてしまおうかなと思われてしまったところが、もしかしたらあったのかなというふうにはちょっと推測はしています。

町としても、こういう形で、今の時代ですので、スマートフォンとか、パソコンとか、そういうところから回答する手段としては設けていかなければいけないなと思っているところなので、今後、このニーズ調査に限らず、町として何か調査物をやったりしていく中では、どういったところが改善していくところなのかとか、あるいは調査としてどういうものが向いているのかとか、そういったところもいろいろ検討しながら、使い勝手のいいものにしていかなければいけないと思っているところです。

2点目の、児童クラブのほうの調査ですが、学校を通じてやらせていただいたことについては、2回目の会議のときにも、こういう形でやらせていただきますというご説明をしたときに申し上げたとおり、基本的には5年前にやったときもほぼ同様のやり方でやっていますので、同じように各学校の各学年から1クラスを抽出していただいて、同じような形でやると、大体同じぐらいの数も集まるだろうというような認識と、あと、前回5年前にやったときには、普通に郵送でやるよりも回収率が高く、7割ぐらいということもあったので、今回も学校にお願いをして、同じような形でやらせていただきたいというご説明をして、ご理解をいただいてやってきたところですが、5年前と比べて事情が大分違っていたのだと思います。学校のほうからも、最近先生にいろいろな調査物や配布物がある中で、先生がやらなければいけないことが非常に増えているというお話を、実際にお願ひしていく中では頂戴してしまして、そういった部分で、先生の負担をできるだけ軽い形にしてほしいというようなお話もいただきながら、今回、お願いをしているところがありました。

実は、5年前には、学校の先生にそこまで強くお願いしたわけではないですけども、あの子が出したかどうか、この子はまだ出していないかとか、そういう管理もして下さっていたというふうには聞いています。

それと比べて、今回は、負担をできるだけかけないようにお願いするという中で、そういう出した、出さないという管理はしないでもいいですと、要は、督促するようなことはしないでもいいですので、配付していただいて、回収されたものだけを集めて取り置きしておいてください、回収に伺いますのでというような、そんな形をお願いをしていたこともあって、その辺が結果に出ているのかなと感じているところです。

ただ、ここの部分についても、非常に難しいものがあるなとは思ってしまして、やり方も、次回、5年後は検討していかなければいけないだろうと思います。

町自体がいろいろなことを、学校を通じてやるといったときに、学校の先生のご負担というのは、ほかの市町村なんかでもやっぱり同じような状況があるというのは聞いて

いますので、この辺の学校を経由したやり方というのを見直すようなことをしていけないといけなと感じています。

ただ、学校を経由してというのは、ある側面では経費負担を少し軽くできるという部分がありますので、こういう形でやってきたところがあると思うのですが、実際に、数多くご意見が集まらないと、そこはまた意味がない。

決して、この数でデータの有効性が損なわれるということではないですけども、やっぱり回収率は上げられるに越したことはないですし、より多くの声を聞きたいという部分では上げたいところもございまして、そういう意味では、今後、例えばこういった調査を郵送でやるのかということも、ちょっと考えに入れておかなければいけないのかなというふうには認識をしています。

それから、ちょっと話が戻ってしまいますが、最初の未就学のほうで、前回とちょっと違う点を、今、話していて思い出しました。

実は、前回5年前というのは、当時、この子ども・子育て新制度が始まったばかりで、国のほうもきちんとやりたいということがあったので、こういうものにかかる経費が全額国庫補助ということでやっていた中で、前は、ご回答をお願いしたところに全部お礼も兼ねてハガキを出していました。要は、督促するような意味あいでも、お礼と、あとまだ提出していない方は提出してくださいというハガキを出していたんですが、今回はそういう補助もない中で、町としても一般的にこういうアンケート調査をやるときには、今、そういう督促的なものを出していないという状況もあるので、今回ハガキは出しておらず、広報の12月号に「今、こういう調査をやっています、ご協力いただいた方はありがとうございます、まだの方は期限までにお出しください」というようなことを載せただけで済ませました。全体の回収率が下がってしまった要因としては、そういうところも考えられるのかなというふうに思っています。

【委員長】 ほかに質問はございますか。

よろしいですか。

どうしても、最近では、紙ベースで見るとというのは、なかなか少ないのかなと。今、いろいろな手紙や書類が各家庭で結構来ていると思うので、捨てる人が結構、私なんかその口ですから、結構そういうものもあるのかな。

アンケートというと、きちんとやらせたほうがいいな、皆さんのためになるからというより、そういう意識が薄いのかなという感じもしますので、そうすると、今のお母さんは、どちらかというと、携帯とか、パソコンとか、そういうIT関係で見る、調べたり、見たりというのが多い、そういう傾向が出てきているかなというふうに、確かに思いますので、この次に、5年後、ニーズ調査があるかどうか分かりませんが、そういうときには、またちょっと皆さんでよく考えて、やり方を整理する必要があるのかなと。

前回より下がったということは、ちょっと残念かなと。せっかく町のほうで子育てについて把握をして、少しでも町内の子どもたちのためにいかにどうしたらいいかということ把握して、進めていかなければいけないというところを、お母さん方自体がそう

というようなことで、少しカットしている部分があるのは寂しいかなと思いますけど、これは、また考えていく必要があるかなと思います。

あとほかには、何かございますか。

【望月委員】 速報のほうで、20ページの地域の一時保育の利用状況のところ、一時保育を利用していない理由、これは、複数回答ですか。

【事務局 守屋】 そうですね。複数回答です。

【望月委員】 ちょっと気になったのは、この下のほうですけど、自分が対象者になるのかわからない、手続きなどがわからないという方が、6.9%とか11%とか、いらっしゃって、この中でも、必要がないからわからなくても構わないという人はいと思うのですが、知りたいなという方がいた場合に、ここでわかりやすい連絡方法とか、手続きのことを知る方法が、知りたい方にわかりやすくなっていけば、ここは減るんじゃないかなと、ちょっと思ったんですけど。

【事務局 宮崎】 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。町としても、例えば子育てガイドですとか、あと、いろいろなホームページですとか、そういったところでも情報を発信しているつもりなのですが、結果的にこういう数字があらわれているということは、今、ご指摘いただいたような部分が、もう少し何か工夫の余地があるんだろうなというふうに思いますので、この部分もちょっと考えさせていただきたいなというふうに思います。

【望月委員】 私は、子どもを子育て中でも、より子どもの年齢が低いというか、小さいときはほんとうに忙しい、目まぐるしく毎日を過ごしているお母さんたちは多いと思って、どういうところだったら目につきやすいとか、どういうところだと情報を得やすいとかという場所とか、機会が多いところに、そういう情報が得られると、やっぱりより安心する材料になると思うので、子育て中のお母さんにとって。

【事務局 宮崎】 ありがとうございます。

【委員長】 何かほかにありますでしょうか。

では、なければ、事務局のほうから何かありますでしょうか。

【事務局 宮崎】 いろいろ説明をさせていただいて、ご質問等、ご指摘もいただきました。ありがとうございました。

事務的なお話で恐縮ですが、今日いらしている皆さん、ここで任期が来ているということで、団体からご推薦いただいているところについては、次年度についての推薦の依頼を出しております。

4月26日までにご返送くださいという形をお願いをしていますので、団体から出てこられている方に関しては、念のためご承知おきいただければと思います。この後、年度替わりで異動等もおありになる場合もあるでしょうし、一応、ご連絡させていただきます。

それから、個人的に委員をお願いしている方には、内々お話はさせていただいていると思いますが、正式に書面的なものをまだ出しておらず、後日、出させていただく予定

でおりますのでご承知おきください。

事務局からは以上でございます。

【委員長】 以上、事務局から報告がありました但最终に、皆さん何かございますか。

【藤崎委員】 私、寒川学童保育会のほうから来ているのですが、最近、学童保育の先生の資格化というのを、やっと数年前にできて、研修をしっかりと受けて資格のある方が配置基準みたいな感じでいないといけないと、補助員さんと、その資格のある先生と一緒に、子どもたちを見てくださいという。

ただ、やっとできたところが、先日からその基準が参酌化という状態になってしまって、国の基準としては、必ずしも守らなくてもいいですよみたいなところにまた戻ってしまって、子どもを見るのに、やっぱりきちんと知識があって研修とかを受けて、そのつもりでやってくださる先生をしっかりとつけて、子どもたちを見てもらいたいと思っていて、それは自治体の裁量に委ねられているところがあるので、ぜひ、寒川町ではその基準を緩めることなく、今、やっている基準で進めていただけるように、予算の面とか、いろいろそのあたりと一緒に、子どもたちのために必要であるという認識でこれからもやっていただけたらと思います。

【事務局 原田】 今回の参酌の部分で一番大きなところが、過疎地域でなかなか支援員が集まらないというところがあって、これまでは、最低でも支援員1人と補助員1人で2名は置かなければいけないというところが、参酌になって1名でも可能ということになります。

今、県内でも結構話題になっていて、各市町村はどうするかということで、調査が始まっている状況です。

平成27年度からこの子ども・子育て支援新制度が始まり、支援員の資格が必要となる制度が始まっていますが、それ以前から町の配置人数については、新制度以上の高いレベルで配置をしているという状況があります。それは、条例の中で定めて配置をしているので、町としては、今のところ、この条例を見直して参酌のところまで下げるといふ考えはございません。

【藤崎委員】 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

【委員長】 確かに子どもを育てるには、きちんとした先生がいることが、一番子どもたちにとっては安心して育っていくわけですから、幼稚園も保育園も認定こども園も、そういう基準については、県のほうも厳しく見ておりますし、監査もしていますので、それはきちんとしてもらったほうが、子どもたちのためになる。

確かに、親としては、1人でも見てもらえるほうがいいという感覚もあろうかと思いますが、安全・安心面で見ると、やっぱりその基準にのっとってやってもらうのがベターかなというふうに思います。

ほかになにかございますか。特になければ、本日の議題は全て終了いたしました。議事進行にご協力いただきまして、ほんとうにありがとうございます。それでは、事務局のほうにお返しいたします。

	<p>【事務局 宮崎】 ありがとうございます。</p> <p>本日は、ニーズ調査の結果を報告させていただいて、いろいろご意見をいただきましたが、この結果を踏まえまして、この4月以降、来年度、第2期の寒川町子ども・子育て支援事業計画をつくっていくこととなりますので、よろしくお祈いします。</p> <p>皆様には、任期中、計画の進行管理について大変お世話になりました。</p> <p>来年度以降も、委員をお願いする方もいらっしゃいますけれども、ひとまず区切りという形となりますので、今後も町の子育て支援施策にご理解・ご協力のほど、よろしくお祈いいたします。</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1-1 寒川町子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告（速報）</p> <p>資料1-2 寒川町子ども・子育て支援事業（児童クラブ）に関するニーズ調査報告（速報）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>望月委員 鷺見委員 （令和元年5月20日確定）</p>